

国税庁長官賞

税金が地球を救う

新潟大学附属長岡中学校

三年 後藤 苺瑚

「明日も猛暑日となる見込みです」

ニュースで毎日のように耳にするこの言葉。今年も七月中旬ごろから暑さの厳しい日が続いている。このような暑さの原因は、やはり地球温暖化なのだろう。人間のせいで地球の環境は変わり、地球は死にかけているのだ。地球を救うために、私たちは何をすることができるだろう。

二〇一五年十二月、フランスのパリで開催された国連気候変動枠組条約締約国会議で、温室効果ガス排出削減のための国際枠組みとしてパリ協定が採択された。それを受けて、日本は脱炭素社会を目指し、二〇五〇年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目標として定めた。

そこで導入されたのが、環境税の一つである「地球温暖化対策のための税」だ。平成二十四年から施行されたこの税制は、石油・天然ガス・石炭などすべての化石燃料に対し、環境負荷（CO₂排出量）に応じて負担を求めるものだという。この税金によって、CO₂の排出削減や人々の温暖化対策への意識向上が期待できるほか、税収を省エネルギー対策や再生可能エネルギー普及などに活用することで、将来的により高いCO₂削減効果も見込まれるらしい。私達が納めた税金が、地球規模の環境問題の解

決につながるのだ。

今までの私にとって税金は、私たちの教育費や医療費など、生活に直結するところで使われる身近なものだった。しかし調べてみると、税金は私たち人間によって壊された地球の環境を取り戻すという、大きな役割をもっていることに気付いた。今、私たちがほんの少しの税金を払うことによって、未来の地球や、そこに生きる人々や生物の命を救うことができるのだ。

現代社会では、税金に対してマイナスのイメージを持つ人が多い。余計に払わされている、家計の負担になる…。なぜ税金を払わなければいけないのか、払った税金が何に使われるのか。それを理解することができれば、税金に対してマイナスの感情を抱く人も減るのではないだろうか。「地球温暖化対策のための税」が導入されたとき、「また税金が増えるのか」と不満に思った人も少なからずいただろう。それは、この税金が何のために導入されたのかを理解していないからこそ言えることなのだ、私は思う。

今、地球は壊れかけている。それは、人間の勝手な行動によって引き起こされた人災なのだ。責任は人間にある。ならば、私たち人間の手で止めなければならぬ。そのためにできることが、身近にあるのだから。

さあ、はじめの一步を踏み出そう。未来の地球と、そこに生きるすべての命を守るために。